

めでいかすとり
Médicastre



「北帰行」

第61回 鶴岡准看護学院卒業証書授与式

日時：令和3年3月4日(木) 13：30～
場所：鶴岡地区医師会館 講堂

3月4日、第61回卒業証書授与式が挙行されました。各家庭保護者1名の参加とし、校歌は事前収録したものを静聴するなど感染対策のも行われました。

今年は新型コロナウイルスの影響で休校や実習変更がある中、一人ひとりが今自分にできることを精一杯取り組み、迎えた卒業だったため感慨もひとしおでした。生涯忘れることのできない一日となったことでしょう。

お忙しい中、講義をしていただきました会員の先生方、また荘内病院をはじめ関連施設での実習においては、職員の皆様からご協力いただき厚く御礼申し上げます。

第61回生総代 工藤 宮子

肌寒い風が吹きつつも暖かい日差しが私たちを照らす今日の佳き日、私たち第61回生は鶴岡准看護学院を卒業する時を迎えました。

本日は、私たち卒業生の為にこのような素晴らしい式典を挙行していただき、誠にありがとうございます。ご多忙にも関わらず多くのご来賓の方々、諸先生方、保護者の方々のご臨席を賜り、卒業生一同心より御礼を申し上げます。

今振り返ると、鶴岡准看護学院で学んできたこの2年間は、あっという間に過ぎていきました。入学直後は、人生経験の異なる者同士が同じ教室で学ぶことに戸惑いもありましたが、専門的な講義が始まる中で、一人一人が自分の目標に向かって学習に取り組んできました。

入学して半年後に迎えた戴帽式では、喜びと感動が込み上げると共に、ナースキャップの重みを感じ、看護の道へ踏み出していくことを自覚し、決意を新たにしました。

臨地実習では事前学習を重ねて臨んだにも関わらず、患者様の疾患や病態を理解することがとても難しく、どのように援助を行っていけば良いのか、悩む日々が続きました。そのような中でも、患者様はご自身の苦痛をよそに未熟な私達を受け入れてくださいました。



「ありがとう」という温かい言葉や、時には「頑張って」と背中を押してくださり、幾度となく支えて頂きました。

また様々な葛藤に悩みながらも、同じ目標を持ち、共に励まし合う仲間が存在があったからこそ、数々の困難を乗り越えてこられたのだと思います。

そして今、こうしてこの場に立つことができるのは、新型コロナウイルス感染症が流行し、大変な状況であったにも関わらず私たち学生を受け入れてくださった患者様、病院関係者の皆様、学院の先生方、どんな時も理解し支えてくれた家族のおかげと、心から感謝申し上げます。

これから16名それぞれが新しい看護の道へと踏み出すわけですが、准看護師としての自信と誇りを持ち、さらに成長できるよう精進して参ります。

在校生の皆さん、学生生活では様々な葛藤や困難にぶつかることがあると思います。その時は、たくさんの方々が皆さんを支えてくださっていることを忘れないでください。一人で悩まず、共に頑張る仲間を大切に、多くの経験を積みながら学びを深めていってください。

最後になりましたが、皆様方のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。



令和2年の鶴岡警察署管内における検視状況について

福原 晶子

令和2年の鶴岡警察署管内における検視状況について、ご報告いたします。総数149件は、ここ数年では若干少ないものとなっております。ただし、警察医による検案は115件とほぼ例年通りです。

昨年、警察協力医による検案がほとんどなかった（1件）理由は、新型コロナウイルス感染症の発生により、検案対象者が感染している可能性があったためです。警察庁の発表によると、昨年3月から12月までに変死事案として取り扱ったご遺体のうち122人でコロナ感染が確認されております。コロナ感染症が鶴岡地区でも発症していたため、昨年春から警察と警察医との協議により、慣れない検案作業により感染することを予防するため、検案はすべて警察医一人で行うこととなりました。佐久間和弘先生には感染予防しながらの検案業務で大変ご苦勞頂いたことをこの場で感謝申し上げます。

この3月から医療従事者に対し、新型コロナウイルスワクチンが優先接種される予定です。接種後には、また例年通りかかりつけ医の先生・協力医の先生方から検案業務へのご協力をなにとぞお願いしたいと存じます。

検視立会および検案依頼状況

◎鶴岡署管内の検視状況（令和2年中）

警察医 ※	病院搬送	警察協力医	かかりつけ医	合計
115	32	1	1	149

※警察医は全体の77.2%を担当

◎過去5年間

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	平均
検視等立会医師	84	113	100	131	115	108.6
病院搬送	51	60	45	45	32	46.6
一般医師	17	7	21	8	2	11.0
合計	152	180	166	184	149	

鶴岡地区医師会広報誌「めでいかすとる」の発行月数の変更について

鶴岡地区医師会広報誌「めでいかすとる」は、令和3年度より年6回（奇数月）発行とすることにいたしましたので、お知らせいたします。

年6回発行にすることに伴い、理事会報告は次第のみを掲載することとし、健診等事業実績および理事会報告協議内容については会報（15日号）に掲載いたします。また、その他の掲載内容につきましても一部変更させていただきます。

鶴岡地区医師会広報誌「めでいかすとる」がより多くの会員の皆様に親しまれ、今後一層充実した読みやすい広報誌にして参りたいと存じますので、今後ともご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

原稿募集中！

趣味・話題・旅行記・思い出があるもの・大切な思い出の出来事等
なんでも構いません。
総務課までご一報を！

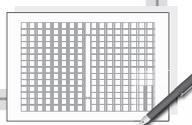


表 紙

「北 帰 行 」

真家 興隆

先月下旬、赤川沿いの田んぼに白鳥を撮りにいった。この頃には田の雪も大方解けて、餌をあさる白鳥たちは泥まみれである。撮影中、西の空からコウコウと賑やかな声が聞こえてきた。見ると白鳥の群れが近づいてくる。早速、カメラを向けると結構な数の群れが次々と飛んで来て、月山方向に飛び去って行った。北帰行・出発風景との遭遇である。

家に帰り、カメラをパソコンにつないで調べたところ、群れの数は18群、白鳥の個体総数293羽、最初から最後の群れ通過までの所要時間は7分11秒であった。写真は1番大きな群れであった、第15群（43羽）の中央付近である。

撮影：2021.02.21, 鶴岡市郊外

編 集 後 記

やっと暖かくなってまいりましたが、寒暖差の激しい日々が続いております。皆様、体調管理はいかがですか。

今年度はとても雪の多い冬でした。深夜、早朝から除雪をして下さる業者の皆様には大変感謝しています。日常の生活を送る上でなくてはならない業務ですが、一方で除雪に伴うケガ人が意外と多いことはあまり知られていません。自宅前の雪、氷のように硬くなった雪を除去するために腰痛を発症されるご高齢の方がたくさんいます。当院へ通院されている患者さんだけでも1シーズンで20名以上います。

通勤や通学などでみんなが使う主要な道路の除雪は当然必要ですが、住宅地内のその辺りに住んでいる住民しか通らないような道路は地面が出るほど根こそぎ雪を除去する必要はないのではないかと日々考えています。鶴岡市の場合、雪、氷の塊を住宅の前に置いていくだけの除雪なのでこの除去がとても大変です。先ほど述べた腰痛の患者さんの中には要介護者となる方もいます。場所によって臨機応変に除雪方法を変えれば、除雪費用、腰痛患者さんの医療費、介護費用など多くの税金節約につながると思います。費用だけでなく根こそぎ除去された塊を除去する無駄な労力も必要なくなります。

以前、行政の方も出席する会議で別件のプレゼンをさせて頂く機会がありました。その時に、この件についても市長に提案しましたが、話題にすらなっていないようです。みんなで声を上げれば何か変わるかもしれません。

(渡邊 秀平)

編集委員：渡邊秀平・小野俊孝・吉田 宏・木根淵智子・菅原真樹・中目哲平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jpホームページにも掲載しております  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>